

林野庁近畿中国森林管理局では、令和6年能登半島地震により発生した山地災害に係る民有林直轄治山事業の効率的かつ効果的な復旧方針について、学識経験者等による技術検討及び助言をいただくことを目的に、「令和6年能登半島地震による山地災害対策に関する技術検討会」を開催しました。

技術検討会においては、現地調査を実施するとともに、山地災害の態様や復旧方針の検討に向けた留意点等についてご助言を頂きました。

1. 日 時 令和6年7月2日～7月3日
2. 場 所 輪島市町野町大久保外（現地調査）、石川県農林総合研究センター（会議）
3. 委 員 座長 柳井 清治 石川県立大学 生物資源環境学部 特任教授
大丸 裕武 石川県立大学 生物資源環境学部 教授
岡本 隆 国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 森林防災研究領域治山研究室 室長
4. 議 題
 - ・ 検討会の目的及び対応状況について
 - ・ 山地災害の概要について
 - ・ 復旧計画に向けた留意点（案）について



意見交換等実施状況

【主な委員意見】

○復旧の考え方を整理するにあたっては、斜面崩壊の形態、保全対象との位置関係、不安定土砂の規模、施設の整備状況、現地へのアクセス等の考慮が必要ではないか。

○地すべり性崩壊については、複数のブロックが存在している箇所がある。また、安定性についても箇所により異なることから、今後、詳細な調査、モニタリングを行う必要がある。

○斜面崩壊に伴い発生した倒木については、保全対象に近接したものや下流へ流出する恐れのあるものは対策を講じる必要がある一方、倒木の撤去による表土の不安定化等にも留意する必要がある。

○現地へのアクセス道の被災状況等も踏まえ、倒木や崩壊土砂などの現地発生材を有効活用してはどうか。



現地調査実施状況（輪島市町野町大久保）